



ニホンテン (イタチ科)  
*Martes melampus*  
日本貂 (イタチ科)  
頭胴長 45cm 前後  
オスがやや大きい

右前肢の足跡  
指は5本

7月16日、私は神河町の市川上流で川辺の岩の下に腕を入れて中を探っていた、「おらんな…」二見北小3年生の鈴木さんからの「市川でオオサンショウウオを捕獲した」という情報を基に、朝から市川の本流と支流の小田原川でオオサンショウウオの調査していたのだが、残念ながら出会うことはできなかった。翌週、改めて鈴木さんから捕獲した場所の正確かつ詳しい情報を聞き、はっきり場所が確定できたので、第2次調査隊を編成し、7月23日に再び市川上流を訪れた。今回はとことんやる気で水着着用の上で川に入り、約3時間這いずり回ったが、この魅力的な天然記念物には今回も出会うことはできなかった。

しかし、今回は別の収穫があった。神河町へ来る途中の国道312号線で野生のテンに出会ったのである。と言っても、車にはねられて死んでいたのだが……。道路わきに倒れていたそいつはイタチかと思ひ、車で一度通り過ぎたが、顔と前後の肢が黒いのと、ノドの鮮やかな黄色が私の右足にブレーキペダルを踏ませた。「あれはテンではないか？」車をわきに寄せて、現場に戻ってみた。やはりテンに間違いないようだった。おそらく昨晚死んだようで、道路の血の跡は乾いており体は硬直していた。写真を撮った後、尻尾をつかんで持ち上げると1kgぐらいの重さだった。ガードレールの外の草むらに横たえて、再び車に戻った。「春に来れば全身骨格が得られるな」と考えながら、神河町へ急いだ。

テンはイタチ科テン属の哺乳類で、日本にはニホンテン(ホンドテン)が、対馬にはツシマテンが生息している。イタチは町でもよく見る(高砂市の我が家にもどうやら住み着いている)が、テンは見かけることはない。しかし、山や森に入るとその糞を見かけることはある。テンはイタチと同じ食肉目に属し、ネズミやモグラ、カエルやトカゲ、昆虫、ミミズなどあらゆる生き物を捕食するが、クワやアケビなどの木の実は盛んに食べる雑食性である。食物の選択肢が豊富なため、山の中ではたくましく繁殖し、絶滅危惧種とはなっていないようだ。

夏のテンは四肢と顔が黒く、ノドから胸が黄色い他は全体にやや褐色帯びるが、冬毛は顔が真っ白で、足先を除いて全身が鮮やかな黄色になる。四肢には爪が発達していて、木登りが得意である。主に夜行性であるが、日中も目撃される。かわいそうに、このテンは夜に道路を渡ろうとして、車にはねられたのではないだろうか。私の交通事故死哺乳動物観察記録(私が轢いたのではないよ)ではキツネ、タヌキ、ウサギ、イタチ、シカ、に続いて6種類目(イヌ、ネコは除く)となる。爬虫類や両生類を含めて、毎日おびただしい数の野生の動物が全国の道路で命を落としている。

## 幸せの青い虫 ～ルリセンチコガネ発見～

6月初旬、校外学習で奈良公園を訪れた。愛らしいシカの瞳に見つめられながら木陰に腰を下ろすと、さわやかな風が香しいシカの糞の匂いを運んできた。よく見ると足元には松ぼっくりのようにまとまったシカの糞があちこちにあった。日本各地では野生のシカが増えすぎて農作物や山の植生を荒らすなどのシカ害が深刻であるが、奈良公園では大切に保護されている。少々シカの糞を踏もうが、つかもうが。「そんなこと(古都)で憤慨(糞害)してもシカたない」と聖徳太子も言われたとか。

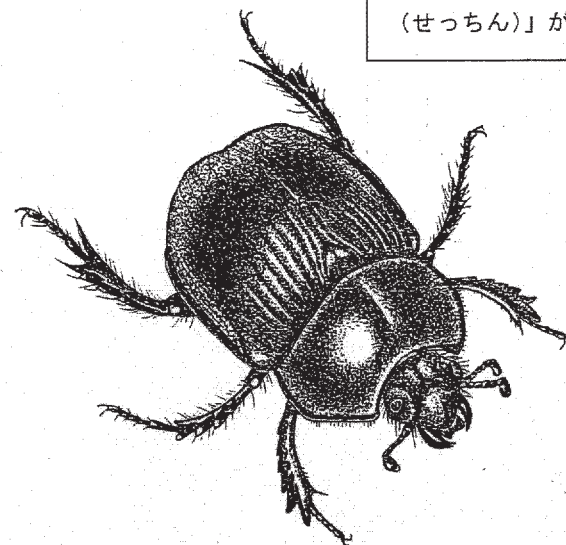
さて奈良公園でシカが落とす糞の量は年間200トンにもなるという(林長閑著『人と甲虫』より)。そのままでは辺りがすべて糞に覆われてしまいそうだが、そうはならず公園はいつも清潔である。じつは自然界には動物の糞を素早く消し去ってしまう掃除屋さんがいるのだ。その代表が糞虫(ふんちゅう)と呼ばれるコガネムシの仲間である。身近に見られるのはオオセンチコガネである。これは体長1.8cmほどの丸みのある甲虫だが、

全身に金属光沢があり、とても糞を食べる虫とは思えない美しさである。体色はワインレッドから銅緑色まで個体差があるが、この中に全身が瑠璃(るり)色に輝く一群があり、オオセンチコガネの中でも、特にルリセンチコガネと呼ばれる。これは奈良から和歌山にかけての限られた地域にのみ分布している。翅(はね)を持ち飛ぶこともできるのに、なぜそのような狭く限られた地域に分布するのか?ひょとして突然変異で現れた一群が分布を広げていく途中なのだろうか?? 謎である。「いっぺんルリセンチを見てみたいもんだ」と思っていたが、はからずも今回私はこいつに出会ってしまったのである。東大寺南大門の外で、トイレに行く途中、松の切り株の上で、「何か?」とでも言いたげにじっとしていたそいつを見つけたのである。気が付くと私はごく自然な動作でそれを手にとっていた。

こいつは哺乳類の糞を食べるわけであるから、できれば素手では触れたくないが、考える前に体が反応し手が出ていた。親虫は新鮮な糞を見つけるとその下にもぐりこみ、トンネルを掘って中に小さくちぎった糞を団子にして詰め込み卵を産み付ける。幼虫はこの糞団子を食べて成長し、サナギとなりやがて成虫となって羽化し地上に現れる。

市街地ではこの虫をほとんど見かけないが、地面がアスファルトやコンクリートに覆われ、糞団子を埋めるような柔らかい土の地面がないことが一因だろう。道端に落ちている犬の糞はいつまでも汚く残り、やがて乾燥して砕けて風に舞い埃となって家の中にも肺にも入り込む。糞虫のいない都会は清潔なようで実はかなり不潔な世界である。

センチは昔の便所を表す言葉「雪隠(せっちん)」が語源



ルリセンチコガネ (センチコガネ科)  
瑠璃雪隠黄金 体長 17 mm 奈良公園産  
学名 *Geotrupes auratus auratus*